

令和 3 年度岩手県動物愛護管理業務実績

令和 3 年度における本県の動物愛護管理業務実績は、以下のとおりです。

1 犬に関する業務実績

(1) 犬の捕獲・引取り等（全県、過去 5 年間）（表 1）

令和 3 年度の犬の実績について、捕獲が 167 頭、引取りが 62 頭、計 229 頭と前年度計 261 頭より 32 頭減少しました。返還は 113 頭、譲渡が 96 頭、計 208 頭と前年度計 263 頭より 55 頭減少しました。殺処分の合計は 24 頭で、過去 5 年間の中でも 2 番目に少ない頭数となりました。咬傷事故件数は 61 件と前年度より 8 件減少し、苦情件数は 359 件と前年度より 68 件減少しました。

なお、いわて幸福関連指標である返還譲渡率は、前年度に引き続き 100% を達成しました。

表 1 犬の捕獲・引取り等（全県、過去 5 年間）

		H29 年度	H30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度
捕獲		231	215	189	206	167
引取り		69	78	47	55	62
負傷動物		8	2	6	7	5
返還		143	124	107	124	113
譲渡		101	125	109	139	96
殺処分		48	54	32	19	24
内 訳	譲渡不適	38	39	23	7	12
	その他	5	3	0	0	0
	自然死	5	12	9	12	12
返還譲渡率※		98.0%	98.8%	100%	100%	100%
咬傷事故件数		51	59	49	69	61
苦情件数		557	540	443	427	359

いわて幸福関連指標

※返還譲渡率：譲渡適性がある犬が返還又は譲渡になった割合

= (返還 + 譲渡) ÷ {返還 + 譲渡 + 殺処分 (その他)} × 100

計画目標値 (令和 4 年度) 犬 : 99.0%

(2) 犬の捕獲・引取り等（公所別）（表2）

令和3年度の公所別の実績ですが、捕獲は一関の29頭が最も多く、次いで奥州26頭、中部26頭と、県南地域に多い傾向がみられました。引取りは、二戸の22頭が最も多く、これは多頭飼育事案への対応が影響したものと考えられます。

返還は、中部、一関の21頭が最も多く、次いで奥州20頭と県南地域に多い傾向が認められ、捕獲頭数との関連が示唆されました。

譲渡は、宮古の20頭が最も多く、次いで二戸19頭、一関16頭でしたが、当該3公所は引取り又は返還に至らない捕獲が多かったことが影響したものと考えられます。

殺処分は、大船渡、釜石及び盛岡市の3公所が0頭でした。譲渡不適が6公所で計12頭、引取り後の死亡が6公所で計12頭、その他は0頭となりました。譲渡不適の主な要因は、攻撃性があり譲渡後に飼い主等へ危害を加える恐れが高いためでありました。

苦情件数は全県で359件、多頭飼育問題の把握件数は7件でした。

表2 犬の捕獲・引取り等（公所別、令和3年度）

	犬													
	捕獲頭数	引取頭数			負傷動物	返還頭数	譲渡頭数	殺処分頭数				咬傷事故	苦情件数	多頭飼育問題把握数
		飼主から	飼主不明	合計				譲渡不適	その他	自然死	合計			
県央	13	3	0	3	0	10	3	3	0	1	4	6	20	1
中部	26	2	1	3	0	21	6	0	0	1	1	6	22	-
奥州	26	4	3	7	0	20	12	2	0	0	2	3	60	-
一関	29	8	2	10	0	21	16	1	0	2	3	5	118	3
大船渡	4	2	1	3	0	4	4	0	0	0	0	4	12	-
釜石	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	7	9	-
宮古	21	3	5	8	0	4	20	1	0	3	4	3	35	1
久慈	23	4	2	6	1	14	7	2	0	3	5	8	26	1
二戸	4	22	0	22	3	3	19	3	0	2	5	3	19	1
盛岡市	21	0	0	0	1	16	4	0	0	0	0	16	38	-
合計	167	48	14	62	5	113	96	12	0	12	24	61	359	7

2 猫に関する業務実績

(1) 猫の引取り等（全県、過去5年間）（表3）

令和3年度の猫の実績について、引取りが555頭、負傷動物が85頭、合計640頭と前年度計716頭より76頭減少しました。返還は8頭、譲渡が502頭、合計510頭と前年度計の469頭より41頭増加し、特に譲渡は、過去5年間で最多となりました。

殺処分は166頭と前年度より100頭減少し、過去5年間で最も少ない頭数となりました。苦情件数は、549件と前年度と比べ71件減少しましたが、依然として多数の苦情が保健所に寄せられています。

なお、いわて幸福関連指標である返還譲渡率は、98.8%で計画目標値を上回りました。

表3 猫の引取り等（全県、過去5年間）

	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	
引取り	608	644	603	625	555	
負傷動物	86	93	93	91	85	
返還	7	8	8	12	8	
譲渡	393	413	396	457	502	
殺処分	282	317	239	266	166	
内 訳	譲渡不適	65	86	80	97	55
	その他	28	10	4	0	6
	引取り後の死亡	189	221	155	169	105
返還譲渡率※	93.5%	97.7%	99.0%	100%	98.8	
苦情件数	652	667	672	620	549	

いわて幸福関連指標

※返還譲渡率：譲渡適性がある犬が返還又は譲渡になった割合

= (返還+譲渡) ÷ {返還+譲渡+殺処分(その他)} ×100

計画目標値(令和4年度) 猫：96.8%

(2) 猫の引取り等（公所別）（表4）

令和3年度の公所別の実績ですが、引取りは宮古の147頭が最も多く、次いで中部の80頭、盛岡市の73頭でした。また、譲渡頭数は盛岡市の91頭が最も多く、次いで中部及び宮古の89件でした。苦情件数では盛岡市保健所の163件が最も多く、次いで一関の121件でした。

殺処分は、大船渡の2頭が最も少なく、次いで一関、釜石の6頭でした。譲渡不適は中部、大船渡及び釜石を除く7公所で認められ、宮古の24頭が最も多い頭数となりました。その他の殺処分は県央で6頭、自然死は全ての公所で認められました。殺処分の頭数は、引取り数、特に所有者不明の幼齢個体の引取り数に影響を受ける傾向があることから、当該引取りに関する対策を講じることが今後の課題と考えます。

全県の苦情件数は549件、多頭飼育問題の把握数については69件であり、犬に比較して猫の多頭飼育に関する問題が多く保健所に寄せられています。中部18件、奥州17件、一関10件と県南地域に多くみられます。

表4 猫の引取り等（公所別、令和3年度）

	猫															
	所有者からの引取り頭数			所有者不明の引取り頭数			引取 合計	負傷 動物	返還 頭数	譲渡 頭数	殺処分頭数				苦情 件数	多頭飼 育問題 把握数
	成熟 個体	幼齢 個体	合計	成熟 個体	幼齢 個体	合計					譲渡 不適	その他	自然死	合計		
県央	18	0	18	5	20	25	43	3	1	31	8	6	15	29	5	3
中部	19	36	55	7	18	25	80	13	1	89	0	0	9	9	47	18
奥州	37	6	43	0	15	15	58	6	0	54	7	0	10	17	92	17
一関	3	1	4	1	48	49	53	7	2	52	1	0	5	6	121	10
大船渡	0	0	0	3	17	20	20	7	0	27	0	0	2	2	8	1
釜石	3	0	3	3	16	19	22	3	0	23	0	0	6	6	27	1
宮古	15	0	15	29	103	132	147	7	0	89	24	0	28	52	33	-
久慈	22	0	22	11	0	11	33	8	0	27	10	0	4	14	34	5
二戸	0	8	8	7	11	18	26	7	1	19	4	0	9	13	19	1
盛岡市	47	3	50	11	12	23	73	24	3	91	1	0	17	18	163	13
合計	164	54	218	77	260	337	555	85	8	502	55	6	105	166	549	69